

令和6年10月

各 位

八戸市東京事務所長

## 八戸レポートの送付について

時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和6年10月号」をお送りしますので、御高覧くださいますようお願いいたします。

八戸市の風張1遺跡から出土した国宝「合掌土偶」が、令和6年7月10日で国宝指定から15周年を迎えました。これを記念して、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館では、合掌土偶が作られた縄文時代後期の「風張ムラ」の様子や出土品を紹介する秋季企画展「合掌土偶ができたころ」を開催しています。

多彩な土器や遺跡の構造などから、縄文人の暮らしをうかがい知ることができる展示内容です。また、会期中は毎週土曜日に学芸員によるギャラリートークも行われます。企画展は11月24日（日）までの開催です。

▼詳細はこちら（八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館ホームページ）

<https://www.korekawa-jomon.jp/>

### ◎皆様へのお願い

職業、役職、連絡先などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階  
電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: [tokyo@city.hachinohe.aomori.jp](mailto:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp)

【行政】

記事	
(1)	<p><b>魅力創生会議 市長に政策案提示 居場所づくりや大学開設</b></p> <p>若者や女性が魅力を感じられるまちづくりの実現を目指して、八戸市が設置した「市まちの魅力創生ネットワーク会議」が9月2日、取りまとめた政策提言を熊谷市長に提出した。本年度は若者を対象に実施したアンケートを基に、「若者の自己実現」という切り口で8テーマ計24の政策案を提示。“八戸版ラウンドワン”と称したスポーツが楽しめる施設や野外映画会による居場所づくり、公共交通をより気軽に使える仕組みづくり、公立大学の設立など多岐にわたる政策案を盛り込んだ。今後は委員と市職員が協議し、提言を施策に反映させる。</p>
(2)	<p><b>八戸市教育委員会 プラネタリウム更新へ</b></p> <p>八戸市教育委員会は来年度にかけて、市視聴覚センター・児童科学館のプラネタリウム設備一式を更新する。投影機を光学式の最新機種「オルフェウス」にするほか、つなぎ目の目立たない高精度ドームスクリーンを導入することで、従来より鮮明な星空を表現でき、これまで投影が難しかった夕日や月食も再現可能。投影できる星の数は6,200個から800万個に増える。工事は10月下旬に始まり、完成後の準備期間を経て来春の大型連休に再開する見込み。</p>
(3)	<p><b>八戸市 ポーラと包括連携協定を締結 健康づくり、女性活躍推進</b></p> <p>八戸市は9月25日、化粧品大手のポーラ（東京）と包括連携協定を締結した。同社が全国の自治体と締結した協定は、青森県など4県5市で、県内市町村では八戸が初めて。連携するのは、健康づくりや女性の活躍推進、結婚や子育て、就職の支援、持続可能な開発目標（SDGs）などに関する分野。同社はイベントへの美容体験ブースの出展、就職活動や婚活などで役立つ各種メイク講座などを行う。協定締結を機に、連携、協力を図り、地域活性化や市民サービス向上を目指す。</p>
(4)	<p><b>八戸市デジタル推進事業 IT業界どう働く？ 学生が「先輩」と意見交換</b></p> <p>若者のデジタル人材育成を目指す八戸市は、9月28日、同市コワーキングカフェ「エスタシオン」で交流会「IT業界をめざす学生とIT業界で働く先輩のミートアップ」を開いた。市の「いきいきとしたデジタル社会推進事業」の一環で、業界に興味がある高校生、高専生、大学生らが参加。市内の企業やフリーランスでエンジニアとして働く4人の「先輩」が、トークセッションで一日の働き方などを紹介後、グループトークで学生からのさまざまな質問に応じた。学生らは、業界の状況ややりがいに理解を深めた。</p>
(5)	<p><b>「本のまち八戸ブックフェス2024」開催 お薦め本一堂、催し多彩</b></p> <p>「本のまち八戸ブックフェス2024」が9月28、29日に八戸ブックセンターと「はっち」で開かれた。同センターが、地域を「本のまち」として活性化させようと2018年から実施しているもので、今年は初の2日間開催となった。初日は、お薦め本や古本、自費出版本などが勢ぞろい。哲学者朱喜哲さんとNHK「100分de名著」のプロデューサー秋満吉彦さんのトークイベントや、本を作るユニークな講座も企画された。2日目はマチニワまで会場を拡大し、作家高森美由紀さん（三戸町）とライトノベル作家倉世春さん（八戸市）のサイン会なども行われた。例年以上の規模で開催され、本好きの市民らが思い思いに本の魅力を味わった。</p>

	<b>若手漁業者ら 水産業再興へ展望語り合う</b>
(6)	八戸市は9月30日、本年度初の「八戸水産アカデミー」を市水産会館で開いた。水産業界を取り巻く厳しい環境を打開すべく今年4月に発足した、県内の若手漁業者集団「あおりウォーズ」の中田創代表理事が、法人の活動目的、水産物のPRイベントや魚食普及などの事業を紹介。その後メンバーによるトークセッションが行われ、参加した約50名を前に、後継者不足や魚食離れなど課題解決への展望を語った。

【産業】

記事	概要
(7)	<b>イトーヨーカドー八戸撤退受け さくら野 テナントの受け皿に</b> 八戸市沼館のショッピングセンター「ピアドゥ」からイトーヨーカドーが撤退したことを受け、ヨーカドーのテナント5店舗が同市三日町のさくら野百貨店八戸店に移転、営業を始めている。9月5日には、1998年のヨーカドーのオープン当初からテナントを構えていた菓子店「おきな屋」が地下1階に入居、ヨーカドー時代と同等の品ぞろえで営業を始めた。このほか移転したのは、アパレル3店と昨年先行して入居していた買取専門店。さくら野は、同市十三日町の老舗百貨店・三春屋が閉店した際も、飲食や衣料など10を超えるテナントの受け皿となっており、青森県南エリア唯一の百貨店として、役割の大きさをうかがわせる。
(8)	<b>八戸・十和田でモニターツアー 「水」テーマに周遊ルート創出</b> VISITはちのへと十和田奥入瀬観光機構の両観光地域づくり推進法人（DMO）は、9月12、13日、「水」をテーマに八戸と十和田の両地域を周遊する観光ルートの確立に向け、国内旅行会社の担当者らを招いた共同モニターツアーを開催した。共同で観光ルートを開発するのは今回が初めて。モニターツアーの参加者は、十和田湖でカヌー、蕪島周辺でシーカヤックなどを体験し、地元の食材も味わった。訪日客や首都圏からの観光客らをターゲットに、自然を生かしたアクティビティや食文化を楽しむプランを提案し、来年度以降の旅行商品として販売を目指す。
(9)	<b>八工大、外国人技術者育成講座修了式 ミャンマー人7人「特定技能1号」取得</b> 八戸工業大学は9月26日、国内企業で就労できる外国人技術者を育成する産学官連携の取組「外国人特定技能エンジニアプログラム」の修了式を行った。本年度から始動した取組で、企業の人手不足の解消、ものづくり産業への貢献、地域定住につなげるのが狙い。修了生のミャンマー人留学生7人は、4月から半年間専門教育を受け、最長5年間働ける自動車整備と建設分野の在留資格「特定技能1号」を取得。いずれも県内外の企業への就職が決まっており、今後は永住可能な「特定技能2号」を目指す。10月～3月はミャンマー人の留学生11人が工業製品製造業コースを受講する。
(10)	<b>八戸商工会議所とJR東 食事券付き日帰り旅行商品 グルメツアーズ開催中</b> 八戸商工会議所は、八戸の魅力である食で観光客を呼び込もうと、9月1日から10月31日まで「グルメツアーズ2024」を開催している。グルメツアーズは2021年まで地元客向けに地場食材や飲食店をPRするため行われていたが、今回から観光客向けにリメイク。JR東日本びゅうツーリズム&セールス（東京）と協力し、新幹線の格安往復切符と市内約40店で利用できる食事券2,000円をセットにした日帰り旅行商品を販売する。会議所の担当者は、宿泊付きなど来年以降も企画をブラッシュアップしていきたいと話す。

【地域】

記事	概要
(11)	<p><b>八戸市十三日町のエリアビジョン策定へ キックオフセミナー開催</b></p> <p>八戸市十三日町のまちづくりの方向性を示すエリアビジョンの策定に向け、市中心街地活性化協議会は9月2日、市内でキックオフセミナーを開いた。十三日町は、旧三春屋の閉店、空き店舗の増加、旧チーノはちのへの再開発など環境の変化に直面しており、協議会はニーズに応じた機能をまちづくりに取り入れるため、商店街や住民と共にビジョンを策定することとした。また、この日は宮城県石巻市のまちづくり会社「街づくりまんぼう」の苅谷智大氏が講師を務め、同市が直面した課題や商店街の取組などを説明。八戸市担当者から中心街の現状データなども紹介され、ビジョン作りの参考にした。ワークショップは計8回開かれる予定。</p>
(12)	<p><b>食品ロスを考えよう くら寿司 新井田小で出張授業</b></p> <p>市立新井田小学校で9月9日、回転寿司チェーン「くら寿司」(大阪府)の出張授業が開かれた。同社は持続可能な開発目標(SDGs)の目標12「つくる責任つかう責任」や14「海の豊かさを守ろう」などをテーマに、2022年度から全国の小学校で出張授業を行っている。身近な回転寿司を題材に、水産業や食をめぐる課題の解決方法を考える内容で、この日は、6年生約90人が本物そっくりな魚の模型を見ながら「低利用魚」活用大切さについて学んだほか、機械式の回転レーンを使った「お寿司屋さんゲーム」を通じて、食品ロスについて理解を深めた。</p>
(13)	<p><b>八食でオータムカーニバル 自慢の逸品に行列</b></p> <p>八戸市の八食センターで9月15、16日の両日、市内外の有名飲食店が一堂に集まる「八食オータムカーニバル」が開かれた。8回目となる今年は、レストランや料理店、キッチンカーなど過去最多となる26店が参加。会場では各店人気のメニューなどが販売され、せんべい汁や馬肉鍋といった郷土料理など地元食材を使用した商品も並び、長い列ができる店もあった。特設ステージでは市内外のバンドによる野外も開かれ、会場は盛り上がりを見せた。</p>
(14)	<p><b>八学大と商工会議所連携 人事担当者招き講座</b></p> <p>八戸学院大は9月11日、キャリアデザイン授業として地元企業の人事担当者を招いた講座を開き、学生が本格化する就職活動に備えて必要な心構えや、企業が求める人材像などを学んだ。八戸商工会議所と連携した初めての講座で、学生に地元企業への関心を高めてもらうことで、若者の地元定着や人材確保につなげたい考え。青い森信用金庫、太子食品工業など三八地域に本社・本店を置く各企業が参加。各ブースで、人事担当者が仕事内容や社風、社員教育などを説明し、学生は興味のある企業を回り興味を深めた。</p>
(15)	<p><b>8 base (東京) でペアリングイベント 八戸の酒と魚介 自慢の逸品アピール</b></p> <p>東京・内幸町の八戸都市圏交流プラザ「8 base (エイトベース)」で9月19日、八戸圏域の食材を使った料理と八戸酒造(八戸市)の日本酒「陸奥八仙」とのペアリングを楽しむイベント「陸奥八仙と八戸ご馳走夜会」が開催された。八戸酒造と同店の運営を担う金剛グループ(同市)の共催で、両社は幾度も試食を重ねメニューを厳選。当日は、地元の魚介などをふんだんに使用した料理と、それに合う日本酒をそれぞれ8品ずつ提供し、参加者は圏域自慢の逸品を味わった。金剛グループは、今後も同店を拠点に地元の酒蔵や異業種企業とのタイアップイベントなどを開催していきたい考え。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(16)	<p><b>パリ・パラリンピック ゴールボール女子 4強ならず</b></p> <p>パリパラリンピックのゴールボール女子で日本は、9月4日、準々決勝でブラジルと対戦し敗退。順位決定戦に回り、6位で大会を終えた。八戸市出身の天摩由貴選手（エイト日本技術開発）は、準々決勝、順位決定戦ともに先発出場し奮闘。体を張った守備や多彩な攻めを見せるなど攻守で存在感を示したが、勝利には結びつかなかった。日本は2大会連続のメダル獲得はならなかったが、会場には天摩選手の家族らが駆け付け、「よくやった」「お疲れさま」と健闘をねぎらった。</p>
(17)	<p><b>アーティスト・GOMAさん（平川市在住） 八高支で絵画交流</b></p> <p>青森県内外でアーティスト活動を展開するGOMAさん（平川市在住）が9月5日、県立八戸高等支援学校の生徒と共に、大きな絵画を描き上げた。文字の読み書きに困難がある「ディスレクシア」と注意欠陥多動性障害（ADHD）を公表しているGOMAさんは、独創性あふれる作風で多くのファンを魅了している。今回は、学校側がGOMAさんとの作品づくりをオファー。同校では、全校生徒で6畳分の大きな布に海の生き物を描いた作品を制作しており、この日はGOMAさんと代表生徒が交流を深めながら作品に彩りを添えていった。</p>
(18)	<p><b>ヴァンラーレ八戸イベント 小中学生 試合観戦×職業体験</b></p> <p>サッカーJ3のヴァンラーレ八戸は9月6日、八戸市プライフーズスタジアムでのリーグ戦に合わせて、試合観戦に職業体験を組み合わせた「スクールトリップデー」を初めて開催した。会場には、パートナー企業10社のほか、消防や警察、自衛隊がブースを出展。八戸や五戸などホームタウン8市町から小中学生約1,700人が来場し、各ブースを回りながら、りんごの模擬競りやドローンの操縦などさまざまな職業の魅力に触れた。試合では、子どもたちもサポーターと一緒にタオルを振り回し足り応援歌を熱唱したりしながら、選手たちに声援を送った。</p>
(19)	<p><b>青森県内初 八戸で全国競技かるた大会</b></p> <p>八戸市文化教養センター南部会館で9月7日、第1回全国競技かるた青森大会が開かれた。全日本かるた協会（東京都）公認の全国大会が、青森県で開催されるのは初めてで、各都道府県から105人が参加。大会は県かるた協会の主催で、小倉百人一首や競技かるたの普及が狙い。試合では、読み手が上の句を朗読し始めると、選手たちは神経を研ぎ澄まし、目の前に並んだ取り札に集中。緊迫感が漂う中、我先にと手を伸ばし、一進一退の攻防を繰り広げる熱戦を展開した。</p>
(20)	<p><b>スピードスケート公開セミナー 加藤条治さん、中高生ら指導</b></p> <p>日本スケート連盟は9月29日、八戸市の「YSアリーナ八戸」で、2010年バンクーバー冬季五輪スピードスケート男子500m銅メダリストの加藤条治さんによる公開形式のセミナーを開いた。同アリーナは連盟の育成拠点に指定されており、セミナーは同日行われた競技会の後に公開形式で初めて開催。指導者や保護者、全国各地からのオンライン参加のほか、市内の中高生20人も参加し、効果的な滑走動作に必要な体重移動や体幹を意識することの重要性などを学んだ。</p>

はちのへ

## ふるさと寄附金のご案内

### 『ふるさと寄附金』で八戸を元気に！

八戸市では、「八戸を応援したい!」「八戸が大好き!」という方々からいただくご寄附を『ふるさと寄附金』と名付け、八戸の魅力を高めるためのさまざまな事業に活用させていただいております。ぜひ、『ふるさと寄附金』という形で八戸市を応援してください!



### ふるさと寄附金の3つの魅力

#### ① 寄附金の使い道を指定できる

震災復興、子育て支援、まちづくりなど複数の分野から、寄附金の使い道を選ぶことができます。

#### ② 税金が控除(還付)される

控除上限額内で寄附を行うと、合計寄附額から2,000円を超える部分について、所得税の還付や住民税の控除を受けることができます。(控除上限額は収入や家族構成によって異なります。詳しくはお住まいの市区町村の個人住民税担当部署にお問い合わせください。)

#### ③ お礼の品がもらえる

八戸市では、10,000円以上の寄附をされた八戸市外にお住まいの個人の方に、地域の名産品を「お礼の品」としてお届けしています。

## 八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

TEL:03-3261-8973 FAX:03-3239-6723

Email:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

[所長] 番沢 啓司 [主査] 齋藤 千聖 [事務員] 浜井 章代

### 申込み方法

#### 郵送・FAX・メール

- 「ふるさと寄附金申込書」に必要事項をご記入の上、ご提出ください。
- 申込書は市ホームページからもダウンロードできます。
- 申込書の郵送をご希望の方はご連絡ください。

市ホームページ



#### インターネット

- 下記4つのふるさと納税ポータルサイトから商品をお選びいただけます。
- 各ポータルサイトの決済方法に従って、寄附金のお支払いをお願いします。
- クレジットカード決済をご希望の場合はこちらからお申込みください。

ふるさとチョイス



楽天ふるさと納税



ふるなび



JRE MALL



### 送付先

広報統計課 ふるさと寄附金担当

〒031-8686

青森県八戸市内丸1-1-1

TEL:0178-43-2319

FAX:0178-47-1485

Email:furusatotax

@city.hachinohe.aomori.jp

八戸市東京事務所では、企業誘致や八戸市関連情報の発信等を行っております。関連情報がございましたら、ご提供くださるようお願いいたします。また、事務所の近くにお越しの際は、どうぞお気軽にお立ち寄りください。

